

# 安全データシート

## 1 製品及び会社情報

商品名: HGクリーナー  
主用途として印刷インキ洗浄等  
会社名: 株式会社ナカタニ  
住所: 〒101-0021  
東京都千代田区外神田二丁目15番5号  
緊急連絡先: 油剤課 Tel.03-3833-2501  
担当部門: 油剤部 油剤課  
電話番号: 03-3833-2501  
FAX 番号: 03-3833-2530  
メールアドレス: ito-j@nakatani-grp.co.jp  
受付日時: 月曜日～金曜日 9:00～17:00  
整理番号: 090080  
作成年月日: 2017年11月1日

## 2 危険有害性の要約

GHS分類:  
引火性液体: 区分3  
皮膚腐食／刺激性: 区分2  
吸引性呼吸器有害性: 区分1  
上記で記載がない危険有害性は、「区分外」、「分類対象外」、「分類できない」を示す。

GHSラベル要素:

シンボル:



注意喚起語:

危険

危険有害性情報:

引火性液体及び蒸気  
皮膚刺激  
飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き:

「安全対策」

熱、花火、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。  
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。  
静電気放電や花火による引火を防止すること。  
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。  
粉じん、ヒューム、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。

「救急処置」

飲み込んだ場合、無理して吐かせないこと。  
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズは外して洗うこと。  
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを受けること。  
飲み込んだ場合：直ちに医師の診断、手当てを受けること。

「保管」

容器を密閉して涼しく換気の良いところで保管すること。

「廃棄」

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に業務委託すること。

## 3 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別: 混合物  
成分及び含有量: イソパラフィン系炭化水素 100wt%

官報公示整理番号(化審法・安衛法): 企業秘密なので記載できない  
CAS No. : 企業秘密なので記載できない

#### 4 応急措置 ばく露経路による応急処置

- 皮膚(または髪)に付着した場合: ・直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を大量の水と石鹼水で洗う。汚染された衣服を再使用する場合には洗濯する。
- 眼に入った場合: ・清浄な水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続け、最低15分間洗浄した後、医師の手当てを受ける。
- 吸入した場合: ・新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。体調の異変を感じたら、直ちに医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合: ・無理に吐かせないで、医師の手当てを受ける。口の中が汚染されている場合は、水で十分洗う。

#### 5 火災時の措置

- 消火剤: 1. 霧状の強化液、粉末、炭酸ガス、泡が有効である。  
2. 初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。  
3. 大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。
- 使ってはならない消火剤: ・棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。
- 火災時の特定危険有害性: 1. 高温の金属表面等に接触したり、燃料管から漏洩した場合、発生した蒸気によって燃焼や爆発が起きる可能性がある。  
2. 燃焼の際は、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。
- 特定の消火方法: 1. 火元への燃焼源を断つ。  
2. 周囲の設備等に散水して冷却する。  
3. 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護: ・消火作業の際は、風上から行き必ず保護具を着用し、皮膚への接触が想定される場合は、不浸透性の保護具及び手袋を着用する。

#### 6 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時措置: ・消火用器材を準備する。作業の際には消火用保護具を着用する。
- 環境に対する注意事項:  
1. 下水道・河川等に流出し、二次災害・環境汚染を起こさないよう注意する。  
2. 海上の場合、展張船によるオイルフェンスの展張は危険防止のため蒸気の及ばない範囲で行う。止むを得ず危険範囲に近づく場合は蒸気の拡散状況を把握し(風向、風速、ガス濃度等)安全を確認する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材:  
1. 蒸発しやすいので、速やかに全ての着火源を取り除き、漏洩箇所の漏れを止める。  
2. 危険地域より人を退避させる。危険地域の周辺には、ロープを張り、人の立入りを禁止する。  
3. 少量の場合は、土、砂、おがくず、ウエス等に吸収させ回収する。  
4. 大量の場合は、盛り土で囲って流出を止めた後、液面を泡で覆い容器等に回収する。
- 二次災害の防止策:  
1. 漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。  
2. 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

#### 7 取扱い及び保管上の注意

##### 取扱い

- 技術的対策:  
1. 指定数量以上の量を取扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。  
2. 熱、火花、炎、高温体等との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。禁煙。  
3. 皮膚に触れたり、眼に入る可能性のある場合は保護具を着用する。  
4. 静電気対策を行い、眼に入る可能性のある場合は保護具を着用する。  
5. 危険物が残存している機械設備などを修理、または加工する場合は、安全な場所において危険物を完全に除去してから行う。  
6. 容器から取り出すときはポンプなどを使用すること、細管を用いて口で吸い上げてはならない。飲まない。  
7. ミストが発生する場合は、呼吸器具等を使用してミストを吸入しない。容器は必ず密閉する。
- 局所排気・全体換気:  
1. 室内で取扱いを行う場合は、十分な換気を行う。  
2. 換気装置をつける場合は、防爆タイプを用いる。
- 注意事項:  
・製品から発生した蒸気は空気より重いので滞留しやすい。

安全取り扱い事項:	そのため換気及び火気などへの注意が必要である。
保管	・ ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と 接触並びに同一場所での保管を避ける。
適切な保管条件:	1. 直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。 2. 容器を密閉し、保管場所に施錠すること。 3. 危険物の表示をして保管する。 4. 熱、スパーク、火炎並びに静電気蓄積を避ける。 5. 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。 6. ゴミ、水分などの混入防止のため使用後は密栓して保管する。
容器包装材料:	・ 容器に圧力をかけない。圧力をかけると破裂することがある。

## 8 暴露防止及び保護措置

設備対策:	1. ミストが発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。 2. 取扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。 ・ 規定なし(作業環境評価基準:労働省告示第26号、平成7年3月27日)
許容濃度 管理濃度:	1. 日本産業衛生学会(2002):設定されていない
許容濃度:	2. ACGIHへ勧告値(2002):設定されていない
保護具	
呼吸器の保護具:	・ 通常必要でないが、必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を着用する。
手の保護具:	・ 長期又は繰り返し接触する場合は耐油性のものを着用する。
眼の保護具:	・ 飛沫が飛ぶ場合には普通型眼鏡を着用する。
皮膚及び身体の保護具:	・ 長期間にわたり取扱う場合または濡れる場合には耐油性の長袖作業着等を着用する。
適切な衛生対策:	・ 濡れた衣服は脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。

## 9 物理的及び化学的性質

形状:	液体
色:	無色透明
臭い:	僅かな臭気
沸点:	170~195(°C)
流動点:	-60°C 以下
自然発火温度:	200°C<
引火点:	47°C
燃焼の範囲または爆発範囲:	爆発限界 推定値 0.8-6vol%
蒸気密度:	データなし
密度:	0.755g/cm <sup>3</sup> (15°C)
溶解性:	水に対する溶解性:不溶
n-オクタノール/水分配係数	データなし
分解温度:	データなし

## 10 安定性及び反応性

安定性:	・ 常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。
危険有害反応可能性:	・ 強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件:	・ 混触危険物質との接触。
混触危険物質:	・ ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触しないよう注意する。
危険有害な分解生成物:	・ 燃焼の際は煙、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。

## 11 有害性情報

急性毒性(経口):	LD50 2000mg/kg以上
急性毒性(吸入):	データなし
皮膚腐食性/刺激性:	ウサギによる複数の皮膚刺激試験において、軽度の皮膚刺激性に区分する結果が認められた。 PH=4.9,14日 後でも皮膚の不可逆的な障害が認められたとの結果及び PII=4.2で不可逆的な障害は認められなかったとのデータがある
眼に対する重篤な損傷性/刺激性:	ウサギによる複数の眼刺激試験において、眼刺激性に区分する結果は得られていない。

呼吸器感作性:

データなし

皮膚感作性:

データなし

生殖細胞変異原性(変異原性):

C10-13を主成分とするn-,iso-パラフィン及びシクロアルカンの混合物ではin vitro, in vivoとも陰性。

本製品はC8-C13のiso-パラフィンであり変異原性はないと推定される。

発がん性:

国際的機関で発ガン性と評価された事例はない。

生殖毒性:

C10-13を主成分とするn-,iso-パラフィン及びシクロアルカンの混合物では生殖毒性なし。

特定標的臓器/全身毒性-単回暴露:

データなし

特定標的臓器/全身毒性-反復暴露:

区分外

C9-13を主成分とするn-,iso-パラフィン及びシクロアルカンの混合物の12週吸入試験でNOAEL=2000mg/m<sup>3</sup>

吸引性呼吸器有害性:

炭化水素で粘度が低いので肺に入ると危険。

## 12 環境影響情報

水性環境有害性(急性):

水に対する溶解性が極めて低く溶解度以下では有害影響はないと推定される。

水性環境有害性(慢性):

C8以上のイソパラフィンは概ね難分解であるが低蓄積性。

## 13 廃棄上の注意

残余廃棄物:

廃棄する場合は焼却によって行う。その際、焼却炉の火室へ噴霧し焼却してもよい。

廃棄物の処理を委託する場合は、都道府県の許可を受けた業者に委託する。

汚染容器および包装:

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の条例に従い適切な処分をする。

## 14 輸送上の注意

国際規制:

	海上輸送	航空輸送
UN No.	3295	
Proper Shipping Name	HYDROCARBONS, LIQUID, N.O.S.	
Class	3	
Sub Risk	_____	
Packing	III	
Marine Pollutant	Not Applicable	_____

国内規制:

	海上輸送	航空輸送	陸上輸送
適用法令	船舶安全法	航空法	消防法
国連番号	3295		_____
品名	炭化水素類(液体)、n.o.s		_____
クラス	3		_____
副次危険	_____		_____
包装等級	III		_____
海洋汚染物質	非該当	_____	_____

- (1)運搬は消防法の他に船舶安全法、その他関係法規の定めるところによる。  
 (2)荷役作業場は火気厳禁とし、消火器を配置すると共に、作業中の標識をする。  
 (3)車輛には異常時のための応急処置に必要な消火器、保護具を備える。

## 15 適用法令

消防法	危険物 第4類第2石油類
化審法	優先評価化学物質(2,2,4,6,6-ヘンタメチルヘプタンを含有)
船舶安全法	引火性液体類 (クラス3)
航空法	施行規則第194条危険物告示別表第1 引火性液体G・等級3
海洋汚染防止法	施行令別表第1 有害液体物質(Y類物質)
化学物質管理促進法(PRTR法)	非該当

## 16 その他の情報

### 参考資料

許容濃度等の勧告(2010)日本産業衛生学会 産業衛生学会誌  
 米国産業衛生専門家会議(ACGIH)“TLVs and BELs 2010”(2010)  
 ECHA(European Chemicals Agency),website“ECHA CHEM”,Information on Registered Substances(2011).  
 IARC Monographs Programme on the Evaluation of Carcinogenic Risk to Humans (2006)  
 EC理事会指令「67/548/EEC」の付属書I「危険な物質リスト」  
 安全衛生情報センター「GHS対応モデルラベル・モデルMSDS情報」  
 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(nite)「GHS関連情報」  
 日本規格協会(JIS) JIS Z 7250:2005「化学物質等安全データシート(MSDS)」  
 同上 JIS Z 7251:2006「GHSに基づく化学物質等の表示」  
 Toxicological Profile for Automotive Gasoline (ATSDR,1995)  
 PATTY, 5th (2001)  
 Hazardous Substances Data Bank, GASOLINE (2004)  
 CCEP, n— Alkanes,2004 (ACC, n— Alkane VCCEP Consortium)

商品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として取扱う事業者提供されるものです。

取扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。